

今月のおもな記事

「満州」分村移民から村を救った村長(1面)
無差別平等の地域包括ケアをどう進めるか(2面)
上伊那地域連絡会の介護学運交(3面)
原水禁世界大会報告(4面)



長野県民医連

長野県民主医療機関連合会
2016年8月25日 第308号

事務局
〒390-0803 松本市元町2-9-11 民医連会館2F
☎0263-36-1390 FAX 0263-33-1229
Eメール kikanshi@n-mr.com
URL http://www.mintyo.or.jp/min-iren
[月1回25日発行 定価100円・加盟院所職員は会費に含む]

国策「満州」分村移民から 村を救った村長・佐々木忠綱

歴史研究者 大目方 悦夫



佐々木忠綱村長

全国最多の移民を
送り出した長野県

明治憲法下、日本は富国強兵を
かけて5つもの戦争を起こし
ました。とりわけアジア・太平洋
を戦場としたあしかけ15年にお
よぶ戦争では、中国に「満州国」と
いうかいらい政権をつくり侵略
し、悲惨な結果となった「満州移
民を送り込みました。しかし、「国
策」に従わず分村移民を拒んだ村
長がいました。歴史研究者の大目
方悦夫さんから学びます。

佐々木忠綱(1898～1989
年)は、下伊那郡大下条村(現阿南
町)の村長を戦前々期務め、当時、国
策としてすすめられた旧「満州」(中
国東北部)への分村移民を最後まで
拒み続けた人物です。
日本が、満州への移民を送り出し
たのは、1932年からです。前年の
満州事変で建国した「満州国」に、国
は多くの日本人を送り込みました。
昭和恐慌で疲弊した農村の再生、食
糧確保、ソ連の侵攻を防ぐ国防上の
理由等が送出の背景にありました。
約27万人の移民者が海を渡りまし
たが、なかでも長野県は全国で最多
の約3万人を送り出しました。

国を挙げて推し進め
られた「分村移民」

満州移民は、1936年になると

重要「国策」になりました。当時の広
田弘毅内閣は、「満州農業移民百万戸
送出計画」を決定しました。この計画
は、20年間で100万戸、500万人
の日本人を満州国へ送り出すとい
うものでした。

この国策をすすめる上で、「分村・
分郷移民」(分村・村を分村して同名
の村を満州に建設、分郷・幾つかの
村がまとまり満州に郷を建設、以下
「分村移民」)が強力に推し進められ
ました。各種の助成金の見返りに村
民を集団で移民させる分村移民は、
行政ルート(国↓県↓村)で、半ば強
制的に進められました。各村では、村
長・各種農業団体・在郷軍人会の役
員などが推進役でした。特に、村のリ
ーダーである村長の姿勢が決定的で
した。国策に従うか否か。多くの村長
が苦渋の決断を迫られました。

分村移民を拒み続けた村長

大目方村(現佐久穂町)はじめ幾つ
もの村が、分村移民に踏み切りまし
た。特に移民に熱心だった下伊那郡
では、多くの村が国策に従いました。
しかし、佐々木村長は、粘り強く反対
し続けました。特に、村長2期目の
1943年、隣村の下条村・富草村
(現阿南町)との連合分村「阿南郷」建
設が計画され、実行を迫られました。
日毎に国や県からの催促が強まり、
時には村役場に在郷軍人や右翼が村
長の決断を求めて怒鳴り込んでくる
こともありましたが、佐々木村
長は、最後まで分村移民を承知しま
せんでした。なぜ拒んだのでしょ
うか。

佐々木村長は、1938年春、下伊
那郡町村会が主催した満州視察に参
加しました。この視察で佐々木村長
は、満州開拓に本来の開拓とは異な
る2つの疑問を抱きました。
それは入植地が現地人を追いだし

た既耕地であったこと、そして「満州
国」が「五族協和(日・満・蒙・漢・朝)
のスローガンに反して日本人が他民
族を差別していることでした。つま
り「満州開拓は、本来の開拓ではな
い」(佐々木は、戦後、西富士開拓の推
進者の一人で、開拓そのものには反
対ではない)という考えです。彼には
「国策」移民の本質が見えていたのか
もしれません。結局、佐々木村長が分
村移民を拒み続けたことによって阿
南郷計画は、中止となりました。

佐々木村長の業績はいまも

1945年8月、ソ連軍侵攻と日
本の敗戦による混乱の中で、多くの
開拓民が自決・殺害・病死などで亡
くなりました。またシベリア抑留や
中国残留婦人・孤児などの多くの犠
牲を生みしました。県全体の犠牲者数



満蒙開拓平和記念館(阿智村)。2016年2月に、
佐々木村長が分村移民に反対した理由を語った録音
テープが寄贈された。記念館には、民医連職員も平和
を学ぶに訪れている。

は、送出数の約半数にあたる1万6
000余名といわれています。戦後、
佐々木が「もし他の方が村長だった
ら分村移民は実現したと思います」
と述べたように、村主導の「国策」移
民が実現していたら村民の犠牲は計
り知れないものになっていたと思わ
れます。

時代に流されず、国策を拒んだ
佐々木忠綱の業績は、紙数の関係で
触れられなかったのですが、彼の教
育(中等学校建設)と医療(病院建設
にかけた情熱と行動力ともに、今、あ
らためて学び直す必要があると思
います。

満蒙開拓平和記念館「北信サテライト」開催!

日時 9月19日(祝/月)10:30～16:00(受付10:00～随時)
会場 長野市勤労者女性会館しなのき
■10:30～12:20 証言映像上映(出入自由)
■13:00～14:30 寺沢秀文副館長講演「満蒙開拓の歴史的教訓と『満蒙開拓平和記念館』」
■14:40～ 参加者交流会など
参加費 一般500円、ピースサポーター400円
申し込み 電話かFAX(0265-43-5580)で記念館へ。当日参加も大歓迎!



開切

四季の変化
がくらしや文
化を豊かにし
ます。そのな
かで夏は、や
り暑いからこ
そ夏です。だ
から、スイカ、かき氷、プ
ール、線香花火、甲子園、
夏休みなどの良さが際
立ちます。また、真っ赤
な百日紅の花が咲き乱
れ、キュウリ、トマトなど
の爽やかな夏です。古来中
国では、人生の各段階を
季節と色で表現しまし
た。若いほうから、青春、
朱夏、白秋、玄冬(玄は黒
の意)です。年齢的には
白秋の段階とは言え、実
際はそんな落ち着いた
境地ではありません。ま
だまだ朱夏。燃えるよう
な働き盛り真最中です
▼7月、熱い参院選でし
た。長野県の投票率は前
回を5%上回って63%、
日本一です。杉尾ひでや
さんの勝利を、信濃毎日
新聞は「改憲阻止野党共
闘結実」と書きました。
次は衆院選。小選挙区中
心の選挙制度はある意
味、参議院よりも「改憲
勢力3分の2」を一気に
打破できます▼長野県
で参院選結果を衆議院
の5つの小選挙区にあて
はめると、全区で野党統
一候補が上回っています。
今後、秋、冬と季節はめ
ぐつても、市民と野党の
共同をさらに厚くし、熱
い運動を続けることが
大事です▼残暑お見舞い
申し上げます。(岩)

NO WAR! 平和憲法守る私の声③

佐藤 文子

南信勤労者医療協会
看護介護部長



私が民医連に就職したのは約30年前。それまで生活や仕事のなかで、憲法や平和について考える事はほぼなかったかと思えます。仕事や私的なことで悩んでも、世の中は平和だと思っていたので考えなかったのだと思います。

民医連就職後、社会人途中で学んだ憲法・平和・人権(講演会・映画・フィールドワーク)をさまざまな形で考える機会をいただきました。そして長野県内のフィールドワークでは県看護学生委員会企画として看護学生と一緒に満蒙開拓平和祈念館・無言館・松代大本営などに

行き、戦争と平和について考える事ができました。満蒙開拓平和祈念館では、生きて戻ってこられた方の体験談に涙がこぼれました。「現地で銃弾で死ねなかったのでお互いの頭を石で殴りあった」と額の傷も見せてくれました。今私たちに戦争の悲惨さと二度と戦争は繰り返してはいけないこと、そして政府は起きている事実を

戦場にいる人たちに伝えずにいた事も語っていました。一人一人の大切な命を無差別に奪う戦争、なぜ戦争が起きるのでしょうか。「それは武器をつくって売りつけて、武器を買わせられて戦争をやっている」講演会で聞いた時、こんな理由があるのかと信じられない思いでした。私たちの行いたい医療・看護は地域の方の健康と生きるを支えることにあります。戦争で医療従事者が戦地に行ってしまったら、誰が地域の人の健康と命を守るのでしょうか。

過去に起きた事実をしっかり学び、なぜ今の憲法が戦後70年たった今も大切にされているか医療を担う者として考えこれからも学び続けたいとおもいます。一緒にフィールドワークで学んだ学生や若い職員が、私たちの職場にいます。これからも憲法・人権・民医連綱領について一緒に学び続けられる事をうれしく思います。



症例発表

上伊那医療生協介護部会では毎年1人1症例に取り組み、介護職学連交で発表しています。今年はより参加しやすいように3フロアで全4回、時間帯

上伊那介護職学連交1人1症例より

「終末期の利用者さんを デイケアで受け入れて」

も工夫して行い、約90人が参加しました。

2例は、の全体演題の後グループワークで各自の症例を発表。利用者さんや患者さんの事例を共有し、意見感想を出し合うことで刺激にもなりモチベーションアップにつながっています。

今年度の中ではデイケアで終末期の利用者さんを受け入れた症例が特に印象に残っています。

このように他部署の取り組みや症例を共有し「その方らしく」過ごしてもらえようように生活支援の専門職として学びあえる「介護部会学連交・一人1症例」に今後もたわいていきたいと思

終末期ケア未体験の職場で、不安を抱えながらも「本当に大切なことは?」「ご本人やご家族の想いとは?」を模索しながら利用者さんに寄り添い対応しました。そして、その方が旅立たれた後「お悔やみ訪問に伺った時にご家族が職員に見えくたさ

者世帯の生活を支える活動……シ

政府が進める「地域包括ケア」は社会保障費を大幅に削る事を目的にしているため、2つの弱点があります。①は単単位で行われる強引な地域の病床削減計画。②は軽度介護認定者をサービス利用から締め出す介護保険制度改悪です。



全国にひろがる「子ども食堂」

者世帯の生活を支える活動……シ

バカチン認知症カフェ等、地域の高齢者などさまざまな人が気軽に集え、交流と助け合いのきっかけとなるような場を作る共同組織の主体的活動助け合い事業を進めるNPO法人の力を借り、絆づくり、まちづくり、地域づくりなどの活動を進める。

③地域で起きている格差・貧困による困難を抱える事例に積極的に関わり、解決に向けた取り組みを強める。……無低診や差額下代をとらない等の事業を強化、拡大する。誰もが気軽に相談できる窓口を設置し、セイフティネットからもれた人が行政の諸制度を有効に活用できるよう支援する。また困難を抱える家庭をサポートし「子ども食堂」無料塾の活動に協力する。

④地域住民の健康を維持・増進させる活動……日P日活動を通して、患者と職員、地域住民の健康水準の向上、健康な地域づくりをすすめる。共同組織の班会や支部会と健康づくり活動の連携を強化させ、要求別目的別の多様な形態を研究しながら活発に進める。

活動のキーワードは人権・連携・運動です。各法人事業所で具体化を強め



HPHでブラジル人学校を支援

活動のキーワードは人権・連携・運動です。各法人事業所で具体化を強め

どんな看護師になりたい? Nurse・Egg・Festival行われる



8月9日、『物語られるいのちin松本～私たちにできること～』をテーマに第7回北関東東甲信越地協NEFが行われ、145人の看護学生・職員が参加しました。甲府共立病院の村松裕子副総看護師長に民医連看護師として大切にしてきたことなどを講演してもらった後、「どんな看護師になりたいか」など民医連看護の視点・原点について話し合いました。

1月に着してから9か月がたちました。長い基礎工事が終わったと思うたう、あといつ間に建物が高くなってきています。外来及び療養環境の改善と、地域の健康づくりの拠点となることを目的とした、今回のリニューアル。建物については多くの職員がレナウト検討や什器の選定、完成後の診療についての議論に活発に参加して進めています。同時に、友の会や患者会のみならず、近隣の地域の方々、リユニアルの今を届けたり病院



に対する想いを聞くため、職員全員で地域訪問やくるまぎ会議を実施しています。「より安心してかかりやすい病院になつてほしい」「地域の病院として活躍し続けてほしい」など、いろいろのながが寄せられています。その期待に応えるべく、2年後のグランドオープンに向けて準備をしていきたいと思います。

松本協立病院 リニューアル工事順調です。

東南西北

ボランティア交流会行われる
7月30日は、この里でボランティア交流会が行われ、20人が参加しました。作りかけと建物でおもてなしし、参加者からは詩吟やハーモニカの演奏などが解説を交えて披露されました。ボランティア活動の心構えを確認したり、施設からは感謝の気持ちを伝えた。参加者から「楽しかった」との声がも



ボランティア交流会行われる

日頃に感謝して納涼会
7月23日、かやの木診療所の運営委員、リニアのボランティアさんの日頃の感謝と労をねぎらう恒例の納涼会を昼神温泉で行いました。33人が参加し、美味しい料理、ゲーム、カラオケなどで楽しく交流しました。最後は全員で「ごめんね」を合唱しお開きになりました。今回は12月に忘年会を予定しています。



飯伊

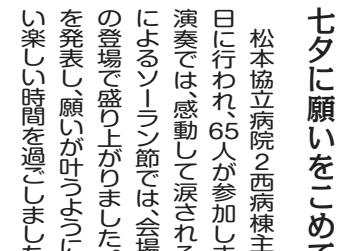
長野

高校生が看護師一日体験
長野中央病院で今年も高校生11日看護師体験を行いました。夏の体験は県看護協会を通して募集し、約60人の高校生が参加しました。病院長や血圧測定を行い、病棟では患者さんとお話しました。参加者からは「進路選択の役に立った」という感想が聞かれました。



諏訪

待合室カフェーちいきの保健室スタート
このみ共立診療所では、6月から待合室カフェをスタートしました。地域のよりどころとして気軽に寄ってこられる居場所、健康づくりや健康チェックを定期的に持つ拠点として毎週水曜日の午後には開催しています。初日から23人が参加し、体組成計、骨密度測定、タオル体操、脳下り吹き矢などで盛り上がりました。



中信

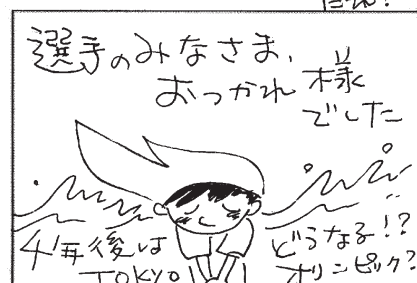
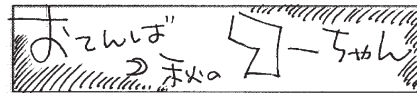
七タに願いをこめて
松本協立病院2西病棟主催の夏祭りが7月30日に行われ、65人が参加しました。アルパと笛の演奏では、感動して涙される方がいました。職員によるソーラン節では、会場からの掛け声と漁師の登場で盛り上がりしました。最後は七タの願い事を発表し、願が叶うように全員で七タの歌を歌い、楽しい時間を過ごしました。



東信

子ども健康づくり教室を開催
8月8日、東信医療生協で「子ども健康教室」を初めて開きました。9組22人の家族(大人10人、子ども13人)が参加してジュニアづくりをしました。が、普段飲んでいるジュースの砂糖の多さにびっくりしていました。スナック菓子の塩分の学習もして、おやつには白玉のフルーッポンチを作りました。

東信



世界の人のびと 非核への思いを交流

原水爆禁止世界大会in広島



原爆ドーム

世界中からの核廃絶と平和を求める声が結集し、今年も原水爆禁止世界大会が開催されました。私たち長野医療生協の代表団は広島大会に参加し、日本及び世界の人のびとと交流しました。

* * *

4日の開会式の後、私は全日本民医連主催の韓国からの医療団（人医協）との交流会に参加しました。ここでは、朴槿恵政権のもと、軍備や医療制度をめぐる非民主的な意思決定が行われていること、医師や医学生への危機感のなさへの危惧などが語られ、政治的な問題に関心をもち行動する意

思をもった医療者として、国は違えども同じ志を持った仲間がいることが嬉しかったです。

* * *

5日の分科会では軍事費をめぐる問題について学習しました。軍事費について研究しているスペインの方からは、核配備国の背景には増大する軍事費の問題があり、軍事費を削減することで武力衝突のインセンティブを減らすことができる、との訴えがありました。「軍事費減らせ」は「憲法守れ」より具体的で効果的な運動テーマである可能性が示されました。



また、核兵器製造企業に投資している銀行は世界27か国に38行（日本は三菱UFJと三井住友）あり、これらの銀行へ



被爆体験に耳を傾ける参加者

預金をしない・させない運動も効果的であるとの指摘がありました。



広島市平和記念式典

6日の平和記念式典では広島県知事が、「被爆の凄惨な現実を知っているからこそ核廃絶を訴えている。核抑止力論は観念論にとどまるものであり、核廃絶論こそが事実に基づいた現実主義である」と訴え、核兵器使用による負の影響（非人道的被害、気候変動、食糧危機など）が科学的に検証されていることが示されました。

* * *

3日間を通して、核廃絶の意義と展望を学び、世界の人のびとと連帯することができました。医療人としての確信をもつためには学習を要するテーマであり、今後も継続して学び行動したいと思います。



原爆の子の像と長野から持って行った折鶴をたむける



動員学徒慰霊塔。平和公園内にはいたるところに慰霊碑がある



原水禁世界大会閉会式